

短歌（投稿順）

今日こそは大根蒔かんと思いつつ三時過ぎたり猛烈残暑  
朝冷えに目が覚め閉める窓の外うろこを染める新秋の朝焼け  
真夜中を待ちて来るらし鹿家族野菜喰うさまみたくもあり  
ままならぬ思い積りて八当り徳なきことを知りつやむなし  
この世からイジメ戦さはなくならぬより良き明日を欲するかぎり  
漸くに秋めきたればパーキングエリアの車内で一夜を明かす  
「ふるさと」の曲の流るる夕チャイム郷の山河と人々想ふ  
脳トレにクロスワードクイズ解く一人静かに楽しむ一刻  
粉瘤とふ吹出物脇に発症すこの夏ひどく汗拭ひしに  
国々の抗うことの多き年天変地異の日本列島  
役場から慶寿の祝い通知来て行つて見るかと前向きな人  
世界的異常気象の大雨に水害能登の被害を案ず  
町からの慶寿の祝いありがたし生き長らえて感謝の尽きず  
人生は思いどおりにいかずとも思いもよらぬ道も現る

三沢 眞下 杏子  
皆野 大澤 貴夫  
国神 藤原マキ子  
皆野 萩原 初恵  
皆野 石原 達也  
皆野 打木 昭廣  
三沢 新井 民子  
三沢 新井 叶子  
皆野 引間 万亀  
皆野 根岸 詩子  
下田野 新井 節子  
上田野 四方田利男  
下田野 浅見 豊子  
皆野 太幡琉美花

俳句 榎本順江 選 投稿数 15 句

幸便かポストを過る秋揚羽  
（評）何日か郵便受けが空っぽだと寂しく、郵便配達のおトバイの音を心待ちの毎日です。今日は、見かけることが少なくなつた美しい揚羽蝶が郵便受けの周りを舞っており、良い便りの届く知らせかと思ひながら蝶を見送っている作者。お元気な九十歳に蝶がエールを送っているようです。二句目、ふだんはちよつと寂しい無人駅も、山が美しく装う春や秋のシーズンには登山客でにぎわいます。今年の山はどんな装いで人々を迎えてくれるでしょうか。駅のにぎわいが待たれる時季となり、作者も山の誘いを待っていることと思います。三句目、五穀豊穰を願つて村祭りでの獅子舞、昔この大任はお父さんでした。次世代に受け継がれた獅子舞を見るにつけ、父親の舞を懐かしむ作者です。また来年のお祭りを楽しみに。無人駅山装ひて誘へり  
舞う獅子に父の面影村祭  
中秋の月愛でにけり昨日今日  
真心を託す一輪貴船菊  
爽涼やお掛け新らし六地藏  
三沢 新井 叶子  
皆野 櫻井 早苗  
皆野 引間 千鶴  
皆野 萩原 初恵  
三沢 新井 民子  
皆野 根岸 詩子

三沢 眞下 杏子  
皆野 大澤 貴夫  
国神 藤原マキ子  
皆野 萩原 初恵  
皆野 石原 達也  
皆野 打木 昭廣  
三沢 新井 民子  
三沢 新井 叶子  
皆野 引間 万亀  
皆野 根岸 詩子  
下田野 新井 節子  
上田野 四方田利男  
下田野 浅見 豊子  
皆野 太幡琉美花